

9 宮良方言（沖縄県石垣市宮良）

9.1 宮良方言を書くために

この章では宮良方言の書き方について具体的に説明します。後述する9.2で表記一覧、9.3で語例、9.4で文例を示しますが、この方言を書くにあたって有用だと思われることをまとめておきます。

基本的には1つの大文字がひといきの発音に対応します。大文字と小文字の連続もひといきに読みます。例えば、「くい」は「く」と「い」に分けて読むのではなく、大文字1つを読むのと同じようにひといきに読みます。共通語にはない発音なので平仮名1文字で表せないため、このような措置をとりました。方言を共通語の発音で表しているというわけではありませんので注意してください。

なぜ宮良方言の書き方をきちんと決めておく必要があるのかについて考えてみます。例えば、民謡の中で「気」のことが「くい」と書いてあっても「きい」と書いてあっても（あるいは漢字で「気」と書いてあっても）、方言を知っている人なら誰でも正しく読むことができます。しかし、方言を知らない子どもや孫の世代はどうでしょうか。100年後に生きている子孫はどうでしょうか。100年後には宮良方言はかなり変化しているかもしれませんので、「気」が一貫した書き方で書かれていなければ、どのように発音されていたのかがわからなくなってしまい、本来は別の発音である「木」との違いがわからなくなってしまいます。現代でも、昔の人が歌っていたとおりの歌詞がわからなくなったり、昔の文献が一部わからなくなったりしています。そこで、この本では、「気」の発音は「くい」（あるいは「きい」「くい°」「きい°」）と書き、「木」の発音は「き」と書こうというように提案しました。この本で提案されている文字・表記については、どのような音に対してどの文字を使うかという決め事

がきっちり記録されていますので、文字の記録だけが残ったとしても後から音を復元することが可能です。もちろん今まで書いてきた方法と違うなどの理由で、この提案をそのまま使いたくない場合もあると思います。そのときは、この本をコピーして（あるいはそのまま）、変えたい平仮名の上に白紙を貼るなどして自分の使ってきた平仮名に書き換えて使うと便利です。でもそのときは、本書で使っている「くい」を「きう」に変えた、などとどこかに書いてあると、後から見た人も分かって良いと思います。重要なのは1つの音と表記が一貫して対応していること、他の発音と区別が付くことです。字面が「くい」なのか「きう」なのかについて、多くの人が揃えて書けばもちろん便利であるのは言うまでもないですが、上で書いたような一貫性やほかの音との区別をつけられるようにすることに比べれば大きな問題ではありません。

このことを踏まえた上で本章では宮良方言の書き方を9.2節～9.4節のように提案します。文節のあとには区切りをわかりやすくするためにスペースを入れて、読みやすくしたほうが良いでしょう。文節より小さい単位の境界を表したい場合は、イコールサイン (=) やハイフン (-) を使いますが、必須ではありません。例えば、「みどうんふぁーぬ うるん」（女の子がいる）と書く場合、「みどうんふぁーぬ」が「みどうん」（女）と「ふぁー」（子）と「ぬ」（が）からできていることをわかりやすく示したい場合は、「みどうん-ふぁー=ぬ」というふうに書くことにします。イコールサインは主に助詞の前に、ハイフンはその他の場合に使います。方言の知識が少ない人や、子供たちに方言を伝える教材を作ったりするような場合には、こういった記号を使うとわかりやすくなるでしょう。片仮名は、日本語共通語と同じく中国語由来でない外来語（「グループ」「セット」など）を書き表すのに用いることをお勧めします。この方針はあくまで基準ですので、読み手にわかりやすい範囲内で自由に創造的に使われることが期待されます。漢字は、日本語共通語と同じ意味、同じ発音で使われてい

る箇所に用いるのは問題ありませんが、方言の言葉を漢字にすると後世の人達には発音がわからなくなってしまいますので、仮名文字を使うことが推奨されます。

9.2 宮良方言の表記一覧

後述する語例の表(9.3)で「著者未確認」としている表記は括弧に入れてあります。表中の「/」は、推奨するのは左側の表記ですが、どちらの表記を使ってもいいことを表します。

あ	い	う	え	お		
a	i	u	e	o		
か	き	く	け	こ		くい/き くい°/き い°
ka	ki	ku	ke	ko		kī
が	ぎ	ぐ	げ	(ご)		
ga	gi	gu	ge	(go)		
さ	し	す	(せ)	そ		すい/ すい°
sa	shi/syi	su	(se)	so		sī
しゃ		しゅ		しよ		
sha/sya		shu/syu		sho/syo		
ざ	じ	ず	(ぜ)	ぞ		ずい/ず い°
za	ji/zyi	zu	(ze)	zo		dzi
じゃ		じゅ		じよ		
ja/zya		ju/zyu		jo/zyo		
た	てい	とう	て	と		
ta	ti	tu	te	to		
だ	でい	どう	で	ど		
da	di	du	de	do		

つあ		つ		つお		つい/ つい°
tsa		tsu		tso		tsī
ちや	ち	ちゆ	ちえ	(ちよ)		
cha	chi	chu	che	(cho)		
な	に	ぬ	ね	の		
na	ni	nu	ne	no		
は	ひ		へ	ほ		
ha	hi		he	ho		
ば	び	ぶ	(べ)	(ぼ)		ふい/ ふい°
ba	bi	bu	(be)	(bo)		bī
ぱ	ぴ	ぷ	(ぺ)	ぽ		ふい/ ふい°
pa	pi	pu	(pe)	po		pī
ふあ	ふい	ふ	(ふえ)	ふお		
hwa	hwi	hwu	(hwe)	hwo		
ま	み	む	め	も		
ma	mi	mu	me	mo		
や		ゆ		よ		
ya		yu		yo		
ら	り	る	れ	(ろ)		るい/ るい°
ra	ri	ru	re	(ro)		rī

わ						
wa						
ん	ー	っ				
n	母音を 重ねる/ :	子音を 重ねる				

9.3 宮良方言の表記を使った語例

語の意味は< >で括って示しています。表中の「/」は、推奨するのは左側の表記ですが、どちらの表記を使ってもいいことを表します。

あ	a	あっこん akkon 〈芋〉、あかまじ akamaji 〈髪の毛〉、あっぱー appaa 〈おばあさん〉、ぶあま buama 〈おばさん〉、あー aa 〈粟〉	0101
い	i	いび ibi 〈指〉、いしやなぐ ishanagu 〈石垣〉、うい ui 〈上〉、くい kui 〈声〉、はい hai 〈南〉	0102
う	u	うむでい umudi 〈顔〉、うしゅまい ushumai 〈ウシュマイ〉、うとうどう utudu 〈弟・妹〉、うでい udi 〈腕〉	0103
え	e	えーま eema 〈八重山〉	0104
お	o	おん on 〈御嶽〉、おー oo 〈豚〉	0105
か	ka	かーら kaara 〈川〉、かざん kazan 〈蚊〉、かま kama 〈あそこ〉、なかつちやー nakacchaa 〈次男〉、すいか sika 〈四箇〉	0601

き	ki	きー kii 〈木〉、びきどらん bikidun 〈男〉、ばーき baaki 〈かご、ざる〉	0602
く	ku	くもーま kumooma 〈小浜〉、くい kui 〈声〉、くくる kukuru 〈心〉、くり kuri 〈これ〉、ふくんきー hwukun 〈フクギ〉、ゆくずん yukuzun 〈欲張り〉	0603
け	ke	かけーず kakeezu 〈トンボ〉	0604
こ	ko	あっこん akkon 〈芋〉、すこ suko 〈そば〉	0605
くい/きい/ くい°/きい°	kī	くいむ/きいむ/くい° む/きい° む kīmu 〈肝、心〉、くいん/きいん /くい° ん/きい° ん だいくに kīn daikuni 〈人參〉、つくい/つきい/ つくい° /つきい° tsukī 〈月〉、くいー/きいー/くい° ー/きい° ー kī: 〈気〉	0607
が	ga	がむね gazamune 〈がじゅまる〉、がっちゃー gacchaa 〈三男〉、めーら がー meera gaa 〈宮良川〉、かんばん kangan 〈鏡〉	0701
ぎ	gi	ばたぎ patagi 〈畑〉、きゃーぎ kyaagi 〈イヌマキ〉	0702
ぐ	gu	ずぐ zugu 〈でいご〉、いしゃなぐ ishanagu 〈石垣〉	0703
げ	ge	ぶげー bugee 〈お父さん〉	0704

ご	go	著者未確認	0705
さ	sa	さったー sattaa 〈砂糖〉、さん san 〈しらみ〉、ぶざさ buzasa 〈おじさん〉	1401
し	shi/syi	しっちや shiccha/syiccha 〈サトウキビ〉、しじゃ shija/syija 〈兄・姉〉、にしんた nishinta/nisyinta 〈北〉、ばんしる banshiru/bansyiru 〈ばんざくろ〉	1402
す	su	すーき suuki 〈アコウの木〉、ふちすば hwuchisupa 〈唇〉、うす usu 〈牛〉	1403
せ	se	著者未確認	1405
そ	so	そんが songa 〈けれども〉	1405
すい/すい°	sī	むかすい mukasī 〈昔〉	1407
しゃ	sha/sya	いしゃなぐ ishanagu/isyanagau 〈石垣〉	1419
しゅ	shu/syu	みしゅ mishu/misyu 〈味噌〉、うしゅまい ushumai/usyumai 〈ウシュマイ〉	1420
しよ	sho/syo	ばしょー bashoo/basyoo 〈バナナ〉	1422

ざ	za	がざむね gazamune 〈がじゅまる〉、ぶざさ buzasa 〈おじさん〉、かざん kazan 〈蚊〉	1601
じ	ji/zyi	ジラバ jiraba/zyiraba 〈ジラバ〉	1602
ず	zu	ずぐ zugu 〈でいご〉、うるずん uruzun 〈雨期〉、かけーず kakeezu 〈トンボ〉	1603
ぜ	ze	著者未確認	1604
ぞ	zo	くぞー kuzoo 〈去年は〉	1605
ずい/ずい°	dzi	でーずいぬ/でーずい°ぬ deedzīnu 〈非常に〉	1607
じゃ	ja/zya	しじゃ shija/shizya 〈兄・姉〉、はりじゃ harija/harizya 〈さより〉、びびじゃ pibija/pibizya 〈やぎ〉	1619
じゅ	ju/zyu	じゅー juu/zyuu 〈しっぽ〉	1620
じょ	jo/zyo	いじょーれる ijooreru/izyooreru 〈歌われる〉	1622

た	ta	たのーる tanooru 〈能力〉、さったー sattaa 〈砂糖〉、ぱたぎ patagi 〈畑〉、かた kata 〈肩〉	0401
てい	ti	ていー tii 〈手〉、ていんぶす tinpusu 〈へそ〉	0402
とう	tu	とうずぶとう tuzubutu 〈夫婦〉、とうるい turī 〈鳥〉、とうもーる tumooru 〈海〉、うとうどう utudu 〈弟・妹〉	0403
て	te	あんで ante 〈そして〉	0404
と	to	とーむん toomun 〈桃〉	0405
だ	da	だいくに daikuni 〈大根〉、ばだ bada 〈お腹〉、なだ nada 〈涙〉、つだみ tsidami 〈かたつむり〉	0501
でい	di	うむでい umudi 〈顔〉、うでい udi 〈腕〉、すたでい sutadi 〈醤油〉	0502
どう	du	どうんつい/どうんつい° duntsī 〈殿内〉、みどうんうとうどう midun-utudu 〈妹〉、ぶどう budu 〈夫〉、かどう kadu 〈門〉	0503
で	de	でーずいぬ deedzīnu 〈非常に〉	0504
ど	do	やどー yadoo 〈戸は〉	0505

つあ	tša	あつつあ attša 〈明日〉	1701
つ	tsu	つぶし tsubushi 〈膝〉	1703
つお	tšo	あんつおー antšo 〈重曹〉	1705
つい/つい°	tsi	ついー/つい°ー tsi 〈血〉、ふだついめー/ふだつい°めー hwudatsimee 〈やもり〉、ついだみ/つい°だみ tsidami 〈かたつむり〉	1711
ちや	cha	ちやー chaa 〈お茶〉、ふっちやー hwucchaa 〈長男〉、しっちや shiccha 〈サトウキビ〉	1721
ち	chi	ちみ chimi 〈爪〉、ちび chibi 〈おしり〉	1702
ちゆ	chu	うやんちゆ ujanču 〈ねずみ〉、ぬいちゆ nuichu 〈糸〉	1722
ちえ	che	あっちえー acchee 〈おじいさん〉	1723
ちよ	cho	著者未確認	1724

な	na	なだ nada 〈涙〉、なかつちや nakaccha 〈次男〉、ばな pana 〈花〉、いしやなぐ ishanagu 〈石垣〉	1301
に	ni	にー nii 〈根〉、ふに hwuni 〈船〉、いに ini 〈稲〉、んに nni 〈胸〉	1302
ぬ	nu	ぬび nubi 〈首〉、ぬいちゅ nuichu 〈糸〉、きーぬ ゆだ kii=nu yuda 〈木の枝〉	1303
ね	ne	びねー binee 〈お母さん〉、がざむね gazamune 〈がじゅまる〉	1304
の	no	たのーる tanooru 〈能力〉	1305
は	ha	はびる habiru 〈蝶々〉、はぶ habu 〈蛇〉、はい hai 〈南〉	1801
ひ	hi	ひーおれーる hiioreeru 〈していращやる〉	1802
へ	he	うたへーん utaheen 〈落としてある〉	1804
ほ	ho	ほんま honma 〈長女〉	1805
ば	ba	ばだ bada 〈お腹〉、ばー baa 〈私〉、ばーき baaki 〈かご、ざる〉	0301

び	bi	はびる habiru 〈蝶々〉、ぴびじゃ pibija/pibizja 〈やぎ〉、なび nabi 〈鍋〉、ちび chibi 〈おしり〉	0302
ぶ	bu	ぶざさ buzasa 〈おじさん〉、ぶどう budu 〈夫〉、やらぶ yarabu 〈テリハボク〉、はぶ habu 〈蛇〉	0303
べ	be	著者未確認	0304
ぼ	bo	著者未確認	0305
ぶい/ぶい°	bī	かぶい/ぶい° kabī 〈紙〉、あさぶいなー/あさぶい° なー asabīnaa 〈遊びに〉	0307
ぱ	pa	ぱな pana 〈花〉、ぱん pan 〈足〉、ぱいり pairi 〈酢〉、あっぱー appaa 〈おばあさん〉	0201
ぴ	pi	ぴにき piniki 〈マングローブ〉、ぴー pii 〈日〉、ぴん pin 〈にんにく〉、ぴびじゃ pibija/pibizja 〈やぎ〉	0202
ぷ	pu	ぷに puni 〈骨〉、ていんぷす tinpusu 〈へそ〉	0203
ぺ	pe	著者未確認	0204
ぽ	po	ぽーぎ poogi 〈ほうき〉	0205

ふい/ふい°	pī	ふいとう/ふい° とう pītu 〈人〉、ふいだるい/ふい° だるい pidari 〈左〉、ふいとうるい/ふい° とうるい pīturi 〈ひとり〉	0207
ふあ	hwa	ふあー hwaa 〈子ども〉	0813
ふい	hwi	ぞっふいだ zohhwida 〈濡れた〉	0814
ふ	hwu	ふだつめー hwudatsīmee 〈やもり〉、ふつい hwutsī 〈口〉、ふたい hwutai 〈額〉、ふっちゃー hwucchaa 〈長男〉	0815
ふえ	hwe	著者未確認	0816
ふお	hwo	うふおーま uhwooma 〈小浜〉	0817
ま	ma	まい mai 〈米〉、まーす maasu 〈塩〉、うしゅまい ushumai 〈ウシユマイ〉、ほんま honma 〈長女〉	1201
み	mi	みつみ mitsi 〈道〉、みず mizu 〈水〉、つだみ tsīdami 〈かたつむり〉、ちみ chimi 〈爪〉	1202
む	mu	めーら むに meera muni 〈宮良ことば〉、むん mun 〈麦〉、くむす kumusu 〈ゴキブリ〉	1203

め	me	めーら meera 〈宮良〉、ふだついめー hwudatsimee 〈やもり〉	1204
も	mo	とうもーる tumooru 〈海〉、くもーま kumooma 〈小浜〉、もん mon 〈門〉	1205
や	ya	やー yaa 〈家〉、やいま yaima 〈八重山〉、うや uya 〈親〉、まや maya 〈猫〉	1001
ゆ	yu	ゆだ yuda 〈枝〉	1003
よ	yo	いずよー izuyoo 〈歌い方〉	1005
ら	ra	かーら kaara 〈川〉、だぶら dabura 〈ふくらはぎ〉、めーら meera 〈宮良〉、	1901
り	ri	はりじゃ harija 〈さより〉、うり uri 〈それ〉	1902
る	ru	はびる habiru 〈蝶々〉、とうもーる tumooru 〈海〉、うるずん uruzun 〈雨期〉、くくる kukuru 〈心〉	1903
れ	re	くれー kuree 〈これは〉、ひーおれーる hiioereeru 〈していらっしゃる〉	1904
ろ	ro	著者未確認	1905

るい/るい°	rī	ぶいだるい/ぶいだるい° pīdari 〈左〉、ぶいとるい/ぶいとるい° pīturi 〈ひとり〉	1906
わ	wa	わー waa 〈あなた〉	1101
ん	n	ほんま honma〈長女〉、なかんま nakanma〈次女〉、うやんちゅ ujanchu 〈ねずみ〉	2012
ー	母音を重ねる /:	まーす maasu 〈塩〉、ていーばん tiipan 〈手足〉、すーき suuki 〈アコウの木〉、かけーず kakeezu 〈トンボ〉、とうもーる tumooru 〈海〉、	2013
っ	子音を重ねる	さったー sattaa 〈砂糖〉、きっふ kihhwu 〈煙〉、あっこん akkon 〈芋〉、がっちゃー gacchaa 〈三男〉、あっばー appaa 〈おばあさん〉	2014

9.4 宮良方言の文例

※方言を話せる人に向けて書く場合、「=」と「-」の記号は省略してかまわない。

めーら=ぬ ゆんた、じらば

みやら=でい いずそー=や むかすい=がら=ぬ てんけーてき 典型的な

miyara=di izusoo=ya mukasi=gara=nu tenkeetekina

宮良=と いうの=は 昔=から=の 典型的な

(宮良というのは昔からの典型的な)

のーみん しゃかい

農民-社会 やり-き ゆんた じらば=でい いず

noomin-shakai yari-ki yunta jiraba=di izu

農村社会 だから ユンタ ジラバと いう

(農村社会だからユンタ・ジラバという)

むぬ=ん=どう で=ずい=ぬ しゅこー さかん ゆー。

munu=n=du deedzi=nu shukoo sakan yuu

もの=が=ぞ 非常にほども盛ん です

(ものが非常に盛んです。)

あんずいきくぬ ゆんた じらば=やかー みやら=んが の=ばい=どう

anziki kunu yunta jiraba=yakaa miyara=nga noobai=du

だからこの ユンタジラバ=なら 宮良=で どのように=ぞ

(だからこのユンタ・ジラバなら宮良でどのように)

うきとうらり の=ばい=どう うとうどう=ぬ め=げー つたいらりきーだ

ukiturari noobai=du utudu=nu mee=gee tsutairari kiida

受け取られて どのように=ぞ 後輩=の たち=に 伝えられて 来た

(受け取られてどのように後輩たちに伝えられてきた)

ゆー=でい いず んめ=ま ばぬ=なりに かんがい みる=かー おそらく

yuu=di izu nmeema banu=narini kangai miru-kaa osoraku

か=と いう 少し 私=なりに 考えて みる=と おそらく

(かということについて少し私なりに考えてみると、おそらく)

ゆんた=とう じらば=でい いず むのー むとうむとー ちがう

yunta=tu jiraba=di izu munoo mutumutoo chigau

ユンタ=と ジラバ=と いう ものは もともと 違う

(ユンタ・ジラバというものはもともと違う)

グループ=んが=どう ^{ぞく} 属ひー うれーる あらぬ-かやー=でい ばー

guruupu=nga=du zokuhii ureeru aranu=kayaa=di baa

グループ=に=ぞ 属して いる ではない=か=と 私は

(グループに属しているのではないかと私は)

うもーりるゆー。 でい いず そー=や ゆんた=でい いず むのー いずかー

umooriru yuu di izu soo=ya yunta=di izu munoo izukaa

思っている です と いう のは ユンタ=と いう ものは 言うならば

(思っています。というのはユンタというものは言うならば)

「ゆむうた」 やり-きー くれー ゆんた=でい いず-かー のー=^{もんだい}ん 問題=や

"yumuuta" yari-kii kuree yunta=di izu-kaa noo=n mondai=ya

ユムウタ である-から これは ユンタ=と いう-と なに=も 問題

(「ユムウタ」だから、これはユンタというと何も問題)

ねーぬ-そんが あんかー ^{もんだい} 問題=や じらば=でい いず むのー

neenu-songa ankaa mondai=ya jiraba=di izu munoo

ないけれど だが 問題=は ジラバ=と いう ものは

(ないけれど、だが問題はジラバというものは)

の-いりやー=でい いざりる-かー じらば=でい いず むぬ=ゆ

no-iryaa=di izariru-kaa jiraba=di izu munu=yu

なに-か=と 言われる-と ジラバ=と いう もの=を

(何かと言われたら、ジラバというものを)

くべつ

区別-ひー しょーる ふいとー なま おーらぬ ゆー。

kubetsu-hii shooru piitoo nama ooranu yuu

区別-する なさる 人は 今 おられない です

(区別することができる人は今いらっしゃいません。)

あんそんが ばー=や ゆんた=とう じらば=でい いず むのー

ansonga baa=ya yunta=tu jiraba=di izu munoo

そして 私=は そうでも ユンタ=と ジラバ=と いう ものは

(そして私は、それでもユンタとジラバというものは)

むかすい=がら びつびつ=ぬ いずよー ひー-おーれーる グループ=んが

mukasi=gara bitsubitsu=nu izuyoo hii-ooreeru guruupu=nga

昔=から 別々=の 歌い方 する-なさる グループ=に

(昔から別々の歌い方をしておられるグループに)

あるん あらぬ-かやー=でい うもーりる-きゆんた=とう じらば=や

arun aranu-kayaa=di umooriru-ki yunta=tu jiraba=ya

ある ではない-か=と 思っている-ので ユンタ=と ジラバ=は

(あるのではないかと思っているので、ユンタとジラバは)

やっぱり なま=やらばん しっかり ばぎて いざりる-よーな

yappari nama=yaraban shikkari bagite izariru-yoona

やっぱり 今=も しっかり 分けて 歌われる-ような

(やっぱり今でもしっかり分けて歌われるような)

いみ

意味 ありどうる あらぬ-かや-でい ば- うも-りるゆ-。

imi ariduru aranu-kayaa=di baa umooriru yuu

意味 ある ではない-か=と 私は 思っている です

(意味があるのではないかと私は思っています。)

ば- いろいろ かんがい-そんが くぬ じらば-でい いず むの-

baa iroiro kangai-songa kunu jiraba=di izu munoo

私 色々 考える-けれども この ジラバ=と いう ものは

(私は色々考えているけれども、このジラバというものは)

え-ま=ぬ ^{ちめ-}地名=と ^{かんけ-}関係 あるん あらぬ-かや-でい

eema=nu chimee=tu kankee arun aranu-kayaa=di

八重山=の 地名=と 関係 ある ではない-か=と

(八重山の地名と関係あるのではないかと)

うむいる ゆ-。 ^{ちめ-}地名=でい いず-そ-や いしなぎら=んが ある

umuiru yuu chimee=di izu-soo=ya ishinagira=nga aru

思っている です 地名=と いう-の=は 石垣=に ある

(思っています。地名というのは、石垣にある)

じら-ぱか いわゆる じらばが ^{ちめ-}くぬ 地名=ぬ あつ-そんが くれ-

jiraapaka iwayuru jirabaga kunu chimee=nu as-songa kuree

ジラーパカ いわゆる ジラバガ この 地名=が ある-けれども これは

(ジラーパカ、いわゆるジラバガ、この地名があるけれども、これは)

あざ いしがき=ぬ むとう なりる ^{ちめー}地名 ゆー。

aza ishigaki=nu mutu nariru chimee yuu

字 石垣=の もと なっている 地名 です

(字石垣のもとになっている地名です。)

くぬ じらばが=んが そーそーまかー=でい いず かー=ぬ あつ-そんが

kunu jirabaga=nga soosomakaa=di izu kaa=nu as-songa

この ジラバガ=に ソーソーマカー=と いう 井戸=が ある-けれども

(このジラバガにソーソーマカーという井戸があるけれども、)

くぬ じらばが=ぬ そーそーまかー=ば いじょーれる

kunu jirabaga=nu soosomakaa=ba ijooreru

この ジラバガ=の ソーソーマカー=が 歌われる

(このジラバガのソーソーマカーが歌われる)

じらばがぬそーそーまかーゆんた=でい いず うた=ん あるん ゆー。

jirabaganusoosomakaayunta=di izu uta=n arun yuu

ジラバガヌソーソーマカーユンタ=と いう うた=も ある です。

(ジラバガヌソーソーマカーユンタという歌もあります。)

くぬ じらばがぬそーそーまかーゆんた、 くぬ メロディ=でい いず むのー

kunu jirabaganusoosomakaayunta kunu merodi=di izu munoo

この ジラバガヌソーソーマカーユンタ この メロディ=と いう ものは

(このジラバガヌソーソーマカーユンタ、このメロディというものは)

ずま=ぬ すま=んが=ん ありどうる ゆー。

zuma=nu suma=nga=n ariduru yuu

どこ=の 集落=に=も ある です

(どこの集落にもあります。)

くり=ん=どう じらば=でい いず グループ=ゆ かんが=いる ばしょ=んが

kuri=n=du jirabaa=di izu guruupu=yu kangairu basho=nga

これ=が=ぞ ジラバ=と いう グループ=を 考える とき=に

(これがジラバというグループを考えるときに)

いついばん重要 あらぬかや=でい ば= うむいる ゆー。

itsiban juuyoo aranu-kayaa=di baa umuiru yuu

いちばん 重要 ではないか=と 私は 思っている です

(一番重要なのではないかと私は思っています。)

(中略)

あんずいきくり=ゆ むとう=げ ひ=て かんが=いる-か=

anziki kuri=yu mutu=ge hiite kangairu-kaa

だから これ=を もと=に して 考える-と

(だからこれをもとにして考えると、)

じらば=でい いず むの= おそらく じらばが=ぬ ゆんた、

jiraba=di izu munoo osoraku jirabaga=nu yunta

ジラバ=と いう もの=は おそらく ジラバガ=の ユンタ、

(ジラバというものはおそらく、ジラバガのユンタ、)

じらばがゆんた=ぬ なか=ぬ、くぬ ^{ちめー}地名=ば とうり

jirabagayunta=nu naka=nu kunu chimee=ba turi

ジラバガユンタ=の 中=の この 地名=を 取って

(ジラバガのユンタの中のこの地名を取って、)

じらばがゆんた=ぬ あと ゆんた=でい いず ^{ひつよー}むのー 必要 ねーぬ-きー

jirabagayunta=nu ato yunta=di izu munoo hitsuyoo neenu-kii

ジラバガユンタ=の 後 ユンタ=と 言う もの 必要 ないので

(ジラバガのユンタの後、ユンタというものが要らないので、)

じらばが=げ なり かんて=どう なまー じらば=でい いず-よーな

jirabaga=ge nari kante=du namaa jiraba=di izu-yoona

ジラバ=に なってこのように 今は ジラバ=と 言う-よーな

(「ジラバ」になり、このように今は「ジラバ」というよーな)

うた=ぬ でいき、 じらばが=でい いず ^{ちめー}地名=ん=どう むとう=でい

uta=nu diki jirabaga=di izu chimee=n=du mutu=di

歌=が でき ジラバガ=と いう 地名=が=ぞ もと=と

(歌ができ、もとはジラバガだと思われます。)

うもーりる ゆー。

umooriru yuu

思われる です

(思われます。)

謝辞

著者らは宮良方言の書きかた執筆にあたり、本章の談話を提供して下さった新垣重雄氏を始め、多くの宮良方言の話者にご協力をいただいています。お忙しい中、方言研究の重要性を認めて貴重な時間を割いてくださる皆様方に心から感謝申し上げます。本章はこの話者の方々のご協力なしにはできませんでした。本章が昔から受け継がれてきた方言を後世に正確に伝える一端を担えていることを願います。

本章には書ききれなかったまだ未解明の部分や間違いなどもあると思いますが、子孫にきちんとした方言を残すためにより正確にするために努力していきたいと著者らは考えています。これからも話者の方々のご意見・ご協力をお願い致します。